

2016年2月7日（日）開催

第4回「フロントランナーのための算数数学授業研究セミナー」開催報告

1. テーマ：国際的に普及する日本の問題解決型授業－その特徴と価値－

2. 参加者実績：計34名

（内訳：小学校教諭11、中学校教諭5、高等学校教諭2、大学教授等2、指導主事等

3、大学院生9、その他（香港日本人学校、NPO法人）2）

3. プログラム構成

10:00～10:55 全体講演（藤井）

※世界が注目する日本の授業研究、日本の問題解決型授業の特徴

11:00～11:55 問題解決ワークショップ

※小学校編（藤井、清野）・・・かわりかたしらべ（マッチ棒、ピンポン球の立体）を題材に、予想される子どもの反応と比較検討でとりあげるべきもの、式と図・立体との対応、教材研究をどうすすめるか、等について、国際調査の結果もふまえながら、演習を通して考えた。

※中・高等学校編（西村、太田）・・・ある公立中学校の実際の授業ビデオ（カレンダーのふしぎ）を題材に、どのような観点（ICTやプリントの構成等表面的なことではなく、教材や子どもの思考のとらえ方等）で指導講評するかについて参加者間で議論した。

11:55～12:00 まとめ

4. 参加者の感想・ご意見

●本日の感想

<授業研究について>

- ・ 授業研究について無意識な部分が多いので、改めてお聞きできて勉強になった。自覚すると教材研究や指導案作りが面白く進みそうだった。
- ・ 研究授業の指導案・事前授業・授業の観察等について、気になってはいても先生方それぞれの価値観、と認めて流していたことがあった。講話を聞いて大事な事として発信していかなければいけないのだなと反省。
- ・ 授業研究が大切ということがわかった。昔から伝統として続けていることを残すだけでなく、新しい取り組みもあると思う。ただ現場ではこのような重要性が年々軽視されている気がする。
- ・ 世界的視野で授業研究をとらえることができとても勉強になった

- ・ 高校ではなかなか実践できない授業研究、特に授業研究の題材にふれ、子どもがそのような発想ができたらいいなという喜びをまた感じる事ができた
- ・ 授業研究の概要について今一度復習することができ勉強になった
- ・ 改めて授業研究の良さを確認できこれからの取り組みの指針となった
- ・ 事前授業は、自分のクラスと反応が違うのでためにならない部分もあるかと感じている。子どもの反応を収集できるよさもある。

<問題解決型の授業について>

- ・ 問題解決型の価値追求の理念の部分、なかなか先生方に伝えられなかったが、このようなワークショップでやるのも一方法だと思った
- ・ 算数の解決型授業の面白さがよくわかった。「子どもたちが考えたい」という気持ちがいまられるような授業を目指したい
- ・ 日本の問題解決型授業が世界で注目しているということを知り驚いた。
- ・ 日本とアメリカの子どもの解法の違い・傾向が面白かった
- ・ 問題解決型の授業について「めあて」「机間巡視」といったことから考えることができた
- ・ 教科書で扱われている数の意味をよく考えていきたい
- ・ 問題解決型授業の必要性が再認識できた

<教材研究ワークショップについて>

- ・ 問題を解くことを通して、ものの見方考え方を育てる授業づくりの為に教材研究と指導案づくりをどのようにしたらよいか、演習で学ぶ事ができた。
- ・ 問題解決の方法を考える楽しさが実感でき本当に来てよかった。帰ってすぐ実践に反映させたいとウズウズしている。
- ・ 思わず考えたくなる問題を出していただき、他の方の話も半分に集中していた。このように集中できる問題を子どもに出す大切さ、楽しさを共に学ばせていただいた
- ・ 中高部会での内容が非常におもしろかった。具体的にどう指導するか（教員に伝わるように）という点を考えることの難しさを感じた
- ・ 授業場面をみせていただき日頃の授業を振り返ることができた
- ・ ピンポン球の問題解決は式と立体がこれほどにもつながりがあると分かり驚いた、自分でも作ってみる
- ・ 問題解決の体験もわくわくした。
- ・ 小規模で先生との距離間も近く楽しめた

<その他>

- 大学のもつ知見や専門性を、現場のフロントランナーに発信し、授業力の向上を図るといのはとてもすばらしい取り組み
- 「日本の教育に自信を持って」という熱意に自信と元気をいただいた。
- 算数数学の良さを伝えるためには「自分が子どもたちの考えのしっぽをつかむ力」をもっとつけなければと思った
- 外国と比べることで、今まで自分たちのやってきたことの価値を見直すことができた。やってきたことに自身ももてた。
- フロントランナーとして授業を見る目を養いたいと思った
- 今まで研究授業の事前研をしていた。目当ても書かせている（しかし目当ては大事だと思う）。式を書く、読むことの大切さがわかった。
- （HP に指導主事とあったので）今日みたいな内容だとかまえることなく参加でき勉強になった

●今後あったら良いと思うセミナー・要望等

- 問題解決型の授業について多くの先生方に知ってもらえるセミナー（校内研や市区町村の研究会ではなかなか理解をえられないなどと思う事もあり、その良さを伝えたい）
- 問題解決型授業の展開例
- 問題解決型の授業の考えを基に、高校ではどんな授業ができるのか、その実践を知りたい
- 教えるのが難しいといわれる例えば「割合」などの単元をどう教えるべきか、またそこまでに何を育てていけばよいか等、一つの単元をとりまく算数教育の流れのようなものを詳しく知りたい
- 高校での授業研究の現状に関するお話
- 高校種むけの講演会・セミナー
- 今回の中高部会のような内容のもの
- 「算数数学の活用力向上のための授業の（指導の）あり方」
- 継続的に現場の教員が参加できる今日のような会
- 第二部のような特定の学年や単元に関するセミナー
- LessonNote の成果、データがみられるようになるといい
- セミナーの回数を増やしてほしい
- English Immersion 用の教材開発、Native English speaking teacher との TT のやりかた（私立英語社会科の先生より）

研修の様子

